

# コシアカツバメ

## ■ご到着は最後

南部町には、燕の仲間が3種類確認されています。ツクシが顔を出す頃に、最初にやってくるのは、イワツバメ。少し遅れてツバメが到着、最も遅くに南部町入りするのがコシアカツバメです。主に、西日本でよく見られる夏鳥ですが、近年、徐々に北へ分布



鳥取県指定絶滅危惧Ⅱ類(VU)  
法勝寺庁舎にて

(撮影：桐原佳介)

を広げているようです。地元ではミヤマツバメと呼んでいる方もいらつしやいました。普通のツバメよりも大きく、名の由来となっている腰の赤さも角度によって美しく映えます。初認日は平成20年では4月28日、平成21年は4月15日、平成22年は4月29日となっています。

## ■個性的なとっくり型

普通のツバメの巣はお椀型ですが、コシアカツバメは、まさに「とっくり型」で、入り口がとて狭くなっています。過去に使った巣の補修をすることもありますが、田んぼから湿った土を運び、唾液を混ぜ、植物の繊維を上手に加え、子を育む空間を懸命に建築します。しかし、巣をスズメに横取りされたり、カラスに巣を壊されたりと、苦難の多い子育てです。

## ■公共施設が大好き

コシアカツバメは、ツバメやイワツバメと同様に民家や公共施設に好んで巣を作ります。法勝寺庁舎では各壁面を

見回ると20個ほどの巣が確認されており、毎年繁殖しています。このような役場は他ではあまり見たことがありません。10年前は、公民館、銀行、小学校、郵便局と近隣の公的建造物に多くの巣がありました。緑水園でも普通に見られていました。しかし現在ではその数は明らかに激減しています。個体数は右肩下がりですが、それでも毎年姿を見せてくれることに、どこかほっとします。法勝寺庁舎のまわりが、良好な里山環境であることを証明する彼らの飛来、今年もこの町に来てくれるのを心待ちにしています。



入口が狭いとっくり型の巣

自然観察指導員

桐原真希

## 祐生出会いの館【緑水湖畔】インフォメーション

『第14回年賀状版画コンクール』審査の結果をお知らせします。応募総数292点(小学生の部183点、中学生の部69点、一般の部33点)でした。祐生大賞は次の方々です。

小学生の部：平山綾花(会見第二小6年)

中学生の部：宇田川朋之(法勝寺中1年)

一般の部：金田 優 (群馬県)



【展示情報】 ●祐生の交流した趣味人たち(4月21日まで) ●安部朱美創作人形展(4月27日～6月24日まで)

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日 ■問合せ先：祐生出会いの館 ☎66-4755